

LIFE TIMES

三菱化学物流株式会社
<http://www.mclc.co.jp/>



平成22年5月6日（木）発行 【隔月（年6回）発行】

発行部署 : ソリューション営業本部 ソリューション部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 中島 英男
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第87号

【目次】

1. 本社組織改正(ソリューション営業本部)について
2. 陸運子会社の合併について
3. カーボンオフセットについて
4. 新幹線を活用したモーダルシフト化へのアイデア
5. 2009年度「物流効率化」提案実績について
6. 衛星場所自慢 Part2 ～第19回 岡山営業所～
7. クラウドコンピューティングについて



1. 本社組織改正(ソリューション営業本部)について

当社では、ソリューション営業の強化を図るため、平成22年4月1日付で本社組織改正を実施し、これに伴い、私共ソリューション部の所管も陸運事業本部からソリューション営業本部となりました。これは、①3PL事業開発部と当部が一体となってソリューション営業を展開することで新規顧客を開拓すること、②3PL営業1部、3PL営業2部と当部が一体となって、既存顧客のフォロー強化に注力することの2点を目的としています。新組織のもと、今まで以上にお客様が抱える物流の悩みへの最適解をご提案できるよう、ソリューション営業本部一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。

新旧組織対比図



2. 陸運子会社の合併について

当社の陸運子会社である菱化ロジテック株(本社:東京都港区)と日化運輸株(本社:香川県坂出市)は、平成22年4月1日をもって合併いたしました。新・菱化ロジテック社は、新たに四国エリアに拠点を構えることで、全国規模の物流実務遂行会社に成長しました。今後は今まで以上に当社・菱化ロジテック社一体となって、安全物流品質の向上や輸送の効率的運用はもちろん、リスク管理・コンプライアンス等あらゆる面でサービスの向上に努め、お客様に信頼される物流会社を目指してまいります。

3. カーボンオフセットについて

地球温暖化に関するニュースを耳にするようになって久しいですが、その中の言葉に「カーボンオフセット」があります。カーボンオフセットとは、二酸化炭素等の温室効果ガスを相殺するという意味です。ではどのような考え方を指すかという、相殺するにはまずは自らが排出している温室効果ガスの排出量を把握しなければなりません。その上で次の項目で紹介するモーダルシフト化のようになるべく排出量を減らす努力を行う必要があります。しかし、削減努力を行ってもどうしても削減出来ない排出量については、それに見合った削減活動を行うことにより、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方です。

削減の方法としては、植林や森林保護により植物に温室効果ガスを吸収させたり、新たな技術を開発し地中や水中に温室効果ガスを封じ込める等して大気中の温室効果ガスを削減しようとするもの、太陽光発電や風力発電等のクリーンエネルギーを活用し排出量を削減するもの、温室効果ガス削減の取り組みに対して投資を行う等が挙げられます。

様々な活動を行った結果、排出量が実質ゼロになった場合を「カーボンニュートラル」、削減量が排出量を上回った場合を「カーボンポジティブ」や「カーボンマイナス」と表します。

最近では多くの企業がカーボンオフセットに取り組んでいますし、個人レベルでも売上の一部がカーボンオフセットの為に使われる商品の購入や募金等によりカーボンオフセットを行う方法があります。しかしながら、どれだけ温室効果ガスを削減したと報告しても、その数字が確実なものでなければ意味がありません。よって我が国では、国内の排出削減活動や森林整備によって生じた排出削減・吸収量を認証する「オフセット・クレジット(J-VER)制度」が2008年11月に創設されています。

4. 新幹線を活用したモーダルシフト化へのアイデア (プレス発表記事集約)

物流部門においては、貨物自動車への過度の依存を転換するための取組みが遅れており、今般、大幅なCO2排出削減の実現を目指す革新的な構想が2件発表されましたので、ご紹介いたします。

1) 【ハイウェイトレイン】東海道物流新幹線(新東名・名神高速道路としては全線2020年開通予定)

2年前発足の「東海道物流新幹線構想委員会」が、昨年12月7日に記者会見で最終構想の発表を行いました。「高速道路の中央分離帯や既着工の使用未確定車線」などを最大限活用し、物流の大動脈である東海道ルート(東京～大阪間)に、最先端の技術を駆使した「物流専用鉄軌道」の開通を目指す構想です。平均時速90～100kmで東京・大阪間(約600km)を6時間30分で走らせます。



【委員会作成のイメージ図】

軌間は、狭軌でJR等の在来線と同一の幅です。列車編成は、1編成最大25両程度。輸送力は、東京・名古屋・大阪の三大都市圏相互間で、約20万トン/日を想定とのことです。

2) 【トレイン・オン・トレイン】北海道新幹線(2015年青森～函館間完成予定)

青函トンネル内で、筒形の新幹線用車両に在来線貨物列車を丸ごと積み込み、時速200キロ以上で走らせる構想で、実験車両がこの4月2日に札幌市内で公開されました。1両は長さ約20メートル、高さ約4.6m。



【「トレイン・オン・トレイン」の実験車両に入った貨物列車】

内部にレールが引いてあり、在来線の延長線上に待機していてコンテナ5個を積んだ貨物列車1両をのみ込むようにして載せます。新幹線車両で牽引し、最大20両を運べるとのことです。青函トンネルは、貨物列車が新幹線と共用で、新幹線の通過待ちをする場所はなく、新幹線が1時間に1本の場合貨物は3本で、構想が実現すれば7本走れる計算となるそうです。実現すれば、【カートレイン輸送】も可能となります。

5. 2009年度「物流効率化」提案実績について

私どもが担当しております2009年度の「物流効率化」の提案実績は約20件になります。

新規のお客様だけでなく、既に当社が業務を受託しているお客様にも「物流効率化」の提案を行い、2009年度も多数のお客様から高評価を頂いております。

近年の調査・検討から提案までの特徴には、以下の3点が挙げられます。

- ①調査から提案まで期間短縮:解析ソフトの導入・充実による解析期間の短縮とともに、関係者からのヒアリングにより何処に問題があるのか正確に捉え、効率化の着眼点取り纏めまでの期間短縮に力を入れています。
- ②実務担当を交えて調査・検討を実施:①で提案した内容をよりスムーズに実行に移せるよう調査・検討の段階から実務担当を入れ、実行までの期間短縮を図っています。
- ③海外案件の増加:まだグループ会社を中心となっていますが、毎年1~2件の提案を行っています。

お客様のニーズに応えられる提案を行う事も大事ですが、管理面の提案などお客様自身も気づいていない問題点まで解決出来る提案を纏められるよう、解析・提案力を磨いていきますので、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

2009年度の主な「物流効率化」の提案事例

提案先	物流規模		分野				効率化率 (ロス率)	検討人数	検討期間
	工場	倉庫	輸送	橋内	仕組	在庫			
A 化学メーカーA事業部	2	7	○	○		○	13%	4人	6か月
A 化学メーカーB事業部	2	9	○			○	11%	4人	5か月
C 化学メーカー	3		○				8%	2人	3か月
D 医薬メーカー		5	○	○			8%	2人	6か月
E 樹脂メーカー	6	13	○				3%	3人	3か月
F 海外フィルムメーカー	1					○	15%	2人	4か月
G フィルムメーカー	3	1	○				10%	2人	6か月
H フィルムメーカー	2		○	○			9%	2人	6か月

6. 衛星場所自慢 Part2 ~第19回 岡山営業所~

岡山営業所は平成15年にC社の物流元請に際し、C社岡山工場敷地内で物流業務全般を開始致しました。

当営業所のある岡山県美作市は、岡山県の北東部に位置し、東を兵庫県、北を鳥取県に接しており、平成17年に6町村が合併して美作市となりました。地域の中央部には中国自動車道が東西に走り、京阪神圏を結ぶ大動脈となっています。

当営業所より約20km北には剣聖宮本武蔵の生誕地があり武蔵の里のシンボルとして、また剣道のメッカとなる事を目指して建設した、武蔵武道館があり、多くの少年剣士が剣聖を目指して汗を流しています。美作地方の特産品として黒大豆が有名ですが大豆は昔から「畑の肉」と呼ばれる様に良質な植物性たんぱく質の宝庫で、さらに黒い色はポリフェノールの一種で「アントシアニン」と言う色素で血液をサラサラにし、体脂肪をつきにくくしている事が判っています。黒豆作り面積日本一を誇る美作の黒大豆を健康のために是非食してください。

また、西へ20kmに津山市があり、森欄丸の弟森忠政侯の居城跡鶴山公園は「さくらの名所日本百選」にも数えられる西日本有数の桜の名所で、毎年10万人を超える人々で賑わいます。津山の名物と言えばご存知の方も多いと思いますが「第4回B-1グランプリ」で3位入賞の津山ホルモンうどんがあります。市内で新鮮なホルモンが手軽に入手出来た事から30年以上も前から人気を博していました。関係者の方々の努力によりB-1グランプリで津山も全国的に有名になりました。是非皆さんも食しに来てください。



宮本武蔵



鶴山公園



津山ホルモンうどん

7. クラウドコンピューティングについて

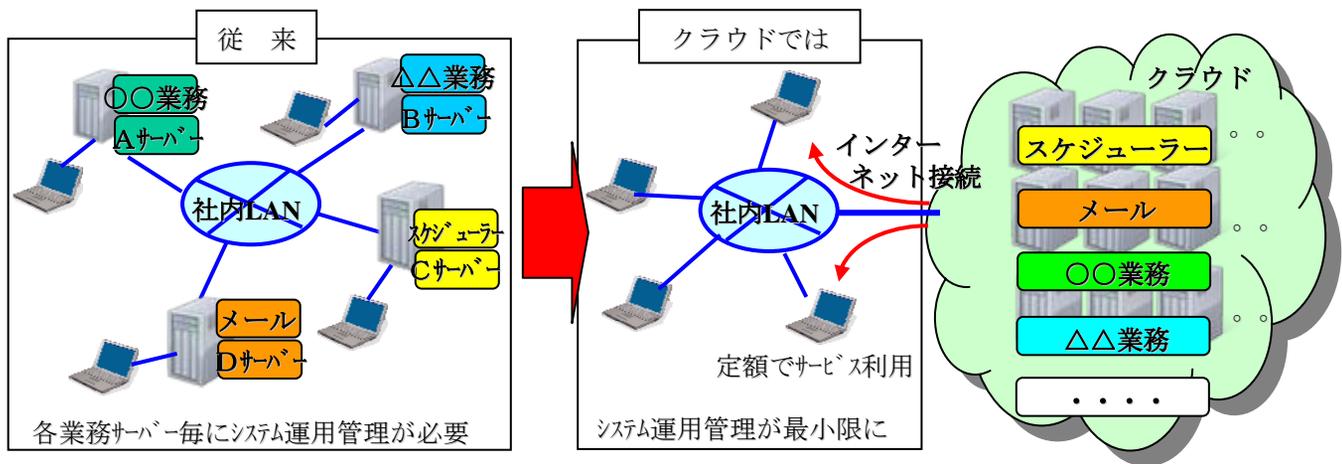
最近、IT関係では何かとクラウドという言葉が話題に上ります。

クラウドコンピューティングとは“コンピューターの利用スタイル”の総称といえますが、一般的には、インターネットに接続できる環境があれば、メール・スケジューラーなどのグループウェアや営業支援などのソフトを初期費用+月額定額料金（かつ低額）で利用できるというものです（以前から提供されていたASPなどもクラウドに含まれます）。しかも、パソコン側にソフトを持つ必要がないのでクライアントのインストールが不要、バージョンアップなどの煩わしい作業から開放されます。今後、さらに提供されるサービスが充実していくと、情報共有（メールやスケジューラーなど）にとどまらず、業務システムもクラウドで提供されるようになるでしょう。

コンピューターシステムが、あたかも水道や電気のようにソフトウェアをサービスとして使えるようになれば利便性だけでなく、企業のITへの投資やIT部門のあり方にも大きな影響を与えることになります。但し、実際に利用する際には利用範囲と料金体系をよく吟味する必要があります。また、社内システムとの連携、バックアップ体制や情報漏えい等のセキュリティ対策など、考慮すべき点もあります。

セキュリティ面などで導入を控える企業向けには、自社内で完結するプライベート・クラウドも提供され始めています。

いずれにしても、IT投資の抑制や、事業の拡大・縮小に柔軟に対応できるITの専門要員が不要、という点から、大手企業にとってはIT投資額の削減、中小企業やベンチャー企業にとっては大企業と同様のITが利用できるという面で大きな魅力があり、注目されているのだと思います。



芝のそよ風

ソリューション部 鈴木 良明

4月1日付にて、我らソリューション部は営業本部と一体となり、更なる営業サービスの強化・発展に努めていく事となりました。

ソリューション部は2003年4月に各場所の精鋭を集め（自分は除く？）結成されました。重鎮の中に若手が一人、気の抜けない日々を過ごしていましたが、丸7年が過ぎ、先輩の転勤・後輩の転入もあり気がついたら結成メンバーで残っている5人の中の1人となり在職年数だけは重鎮のようになってしまいました。

3年後、ソリューション部結成10周年の時にまだ同じ職場にいるのか？いないのか？そんな心配は横に置いておいて、今まで以上にお客様に興味を持って戴ける提案が出来るよう努力して参りますので今後とも三菱化学物流㈱を宜しくお願い致します。